

あるべき税制研究会（27回）議事録

3月5日、経団連会館で第27回あるべき税制委員会が開催されました。今回は、税制改正法の附則8項目をめぐって議論を行いました。

冒頭、香西委員から、「抜本的な税制改正のためのメモ」に従って問題提起をいただきました。とりわけ、100年に一度という経済危機にもとでの税制改革の在り方、長期的・自発的な対応を支えることに優位を持つ税制を、短期の調整に過度に利用することの問題点、財産の差を無視した定額給付の問題に端を発する番号等の課税インフラの整備の必要性等について問題提起が行われました。税目別の問題については、所得税率について最適課税との関係、我が国の給与所得控除の問題点と議論の必要性、消費税における軽減税率とマリーズレポートにおける問題意識（英国のゼロ税率の問題）が提示されました。

以下の議事録本文は会員用メールマガジンで配信します。